

越前町の姉妹都市 福岡県みやま市

越前町と福岡県みやま市との交流について

福岡県みやま市（旧瀬高町）と越前町（旧朝日町）は、国の重要無形民俗文化財「幸若舞」の縁で、平成6年7月20日に友好姉妹都市として姉妹縁組を結びました。旧朝日町は幸若舞の発祥地で、幸若家の菩提寺である龍生寺を始め、幸若家の歴史を伝える古文書や物語を読み物にした「舞の本」など、多くの資料や文化財が伝わっています。一方、旧瀬高町は全国で唯一残っている幸若舞の伝承地です。昭和51年には国の重要無形民俗文化財の指定を受け、昔の姿そのままに、毎年1月20日に大江天満神社の舞堂で舞が奉納されているそうです。

みやま市について

福岡県みやま市は、平成19年1月29日に瀬高・山川・高田の3町が合併して誕生した市です。人口は約3万7千人、面積約105km²、福岡県の南端に位置し、一部が熊本県に接した地域です。東部は清水山、御牧山などの丘陵や山系が連なっています。西部は有明海の干拓によって開かれた低地があり、全体として平坦な田園地帯が広がっています。主な産業は農業と漁業の一次産業で、みかんやセロリ、ナス、海苔が有名な特産品です。



▲みやま市章



MIYAMA

▲みやま市シンボルマーク



▲みやま市マスコットキャラクター「くすっぴー」



幸若舞について

幸若舞は、中世から近世にかけて、能と並んで武家達に愛好された芸能であり、武士の華やかで哀しい物語を主題にしたものが多く、これが共鳴を得たことから 隆盛を誇ったといわれています。一ノ谷の合戦の平敦盛と熊谷直実の「敦盛」などは特に好まれたようです。

江戸時代に作成された「幸若系図」によれば、幸若舞曲を創始したのは源義家から7代後の桃井播磨守直常の孫、直詮とされ、幼名を幸若丸といったことから幸若舞の名が出たとされています。幸若丸は越前国丹生郡西田中村に住んでいましたが、父の没後、比叡山の稚児となりました。生まれつき歌舞音曲に優れた才能があり、草子に節をつけて謡ったのが評判になって幸若舞と呼ばれるようになったそうです。



▲幸若舞の披露（みやま市）

児童交流事業について

令和元年度の交流の様子



越前町とみやま市は、毎年児童交流事業を実施しています。参加対象者は町内8つの小学校に在籍する5・6年生の児童です。参加者は秋にみやま市へ2泊3日間滞在し、みやま市の児童と一緒に花火作りや、幸若舞の鑑賞、清水山ウォークラリーなどを通じて、みやま市について学び、交流を深めます。そして、冬にはみやま市の児童が越前町を訪れ、越前焼体験や太鼓体験、雪遊びなど越前町を満喫します。このときは越前町のみならず笑顔でみやま市のお友達を迎えます。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、インターネットを活用した遠隔交流を令和3年1月31日に実施する予定です。

問合せ先 国際交流室 ☎34-8713